



名取市史 どより

第2号

名取の古墳に恋をして♡☆☆

名取市には東北最大の古墳が2つあるのを知っていますか。なだらかな丘と広い平野に恵まれた名取市には国の史跡の雷神山古墳や飯野坂古墳群をはじめ、大小さまざまな形の古墳が造られました。

高く盛り上げた土の山に死者を納めた大きなお墓のことを古墳と呼びます。その古墳がたくさん造られた時期を「古墳時代」といい、一般的に3世紀から7世紀の間とされています。この間、日本全国では16万以上の数の古墳が造られました。古墳に埋葬された人物は古墳がある地域をまとめた有力者と考えられますが、単にお墓というだけではなく、葬られた人物の身分や階層、考え方などを表現していると言われています。

雷神山古墳は名取の平野が一望できる小高い丘の上に造られた前方後円墳です。古墳の長さは168メートルあり、東北最大の大きさで、古墳時代初め頃(初期)では東日本最大級の古墳です。古墳は3段に造られ、斜面は石で覆われ、段には壺の形をした埴輪が並べられていたと考えられています。

飯野坂古墳群は雷神山古墳の約1キロメートル北の丘の上にあります。5つの前方後方墳と2つの方墳で構成されています。その一つの薬師堂古墳から壺の形をした埴輪が見つかっており、古墳時代初め頃の古墳群と考えられています。前方後方墳が狭い範囲に多数造られている例は全国でも珍しいです。

賽ノ窪古墳群は愛島地区の丘に20以上の数の古墳で構成されています。その中心の名取大塚山古墳は長さが90メートルの前方後円墳で、古墳時代中頃(中期)では東北最大の古墳です。この古墳は形がホタテ貝に似ていることから帆立貝形古墳とも言われています。

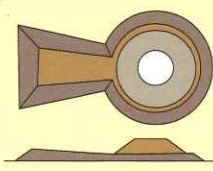
名取市の東側には海岸だった小高い土地に造られた下増田飯塚古墳群や経の塚古墳など、直径が20メートルから30メートルほどの円墳があります。その他にも宇賀崎古墳群、箱塚古墳群などが残されています。

こうした古墳は古墳時代の後半から各地に密集して造られていますが、古墳時代の終わり頃(終末期)になると、熊野堂横穴墓群のような崖に穴を掘ってお墓にする横穴墓が多数造られるようになります。

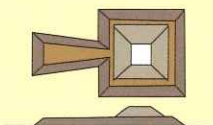
名取市には今も皆さんの身近なところにたくさんの古墳が残されています。ぜひ古墳を訪ね、古墳と会話し、いにしえに思いをはせてはいかがでしょうか。



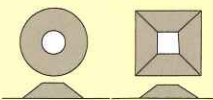
雷神山古墳と小塚古墳



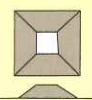
前方後円墳



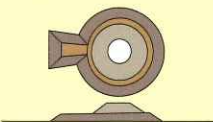
前方後方墳



円墳



方墳



帆立貝形古墳

古墳の形

名取市史最前線

名取市市史編さん事業2年目となった令和5年(2023年)夏、初めての「なとり市史企画展」を名取市歴史民俗資料館で開催しました。テーマを「わたしたちの『名取市史』…「市史」ってなあに?」としたこの企画展では、近世の地誌(地域ごとの歴史や特色をまとめた本)から昭和52年(1977年)に刊行された前の『名取市史』まで、地域の歴史をまとめる営みを紹介しました。現在進行中の新しい『名取市史』編さんへ市民のみなさまに関



企画展の展示

心を持っていただき、参画してもらえることを願った企画展でした。展示の内容は『河北新報』や『読売新聞』で取り上げていただいたこともあり、7月9日(日)から9月24日(日)までの3カ月弱の開催期間中、多くの方に足をお運びいただきました。

また、企画展開催期間中に、「なとり市史講演会 未来へ放つ名取の歴史」も併せて開催いたしました。この講演会では、名取市史編さんに携わっていただいている菅野正道先生(市史編さん委員会委員・市史編さん専門委員会委員・市史編さん専門部会〔中世〕部会長・



佐藤先生の講演

市史編さん専門部会〔近世〕専門部員、元仙台市史編さん室室長)と佐藤大介先生(市史編さん専門部会〔近世〕部会長、東北大学災害科学国際研究所准教授)にご登壇いただき、江戸時代の名取の姿や、「古文書こもんじょ」と呼ばれる歴史の資料の収集についてお話をいただきました。当日は130名ほどにお越しいただき、盛会となりました。

市史編さん室では来年度も企画展や講演会を開催したいと考えております。ぜひ、ご参加ください。



菅野先生の講演

名取市の魅力を再発見! — 笠島廃寺跡の調査 —

この古代寺院に関しては、これまで詳細な調査が行われていないため、具体的なことは不明なままです。そこで今回、市史編さん室では、名取市市史編さん事業の一環として、調査に乗り出しました。調査成果は令和8年度(2026年度)に刊行される『名取市史』第1巻に盛り込まれる予定です。新しい発見により、古代名取郡の政治と宗教に、新たな知見が広がるでしょう。さらに、その歴史文化の新発見によって、名取市の魅力を再認識できることが期待されます。

令和6年(2024年)初頭、市史編さん室は笠島廃寺跡かさしまはいじあとの調査(測量とし掘くつ)に着手しました。笠島廃寺跡は、愛島笠島宇西台にある佐倍乃神社さえのじんじや(道祖神社としても知られています)から150メートルほど南に位置し、古代(奈良時代から平安時代初期頃)の寺院跡と考えられています。跡地には、塔を支える柱の礎石そせきと思われる石と、土壇どだんの跡が残っていました。



令和5年6月の事前調査

経の塚古墳

藤澤 敦

(市史編さん専門部会〔原始・古代〕部会長)

経の塚古墳は、下増田字西経塚にかつて存在した古墳です。宮城県内で、もっとも早い時期に調査が行われ、重要な資料が出土した古墳です。

経の塚古墳の最初の調査は、明治41年(1908年)の東京帝国大学の坪井正五郎による発掘調査でした。埋葬施設を探索しましたが発見には至りませんでした。この調査の際に、経の塚古墳には埴輪が存在することが知られ、明治43年(1910年)から複数回にわたって、郷土研究者の常盤雄五郎と遠藤源七によって埴輪が採集されました。埴輪の一部などは当時の帝室博物館に寄贈され、現在の東京国立博物館に引き続き収蔵されています。それ以外の埴輪は、石巻市の毛利・遠藤コレクションの一部として保管され、埴輪4点が昭和34年(1959年)に国から重要文化財に指定されました。昭和37年(1962年)には、東北大学文学部が、毛利・遠藤コレクションの石巻市沼津貝塚出土資料とともに、これらの埴輪を購入しました。

大正12年(1923年)には、病院建設で墳丘が大きく削られ石棺が出土しました。内部から2体分の人骨、刀2点、櫛などが出土しました。これらは、東北帝国大学の所蔵となり、医学部解剖学教室で保管されていましたが、後に文学部に移されました。

残っていた墳丘も、昭和39年(1964年)の土地改良事業の道路建設で削平されることとなり、東北大学文学部考古学研究室の伊藤玄三によって発掘調査が行われました。その結果、直径36メートルの円墳で、幅20メートルの広い周溝がめぐっていたことが明らかとなりました。墳丘があった場所の南には、観音堂を移設するために、南側に塚が造られました。現在、現地に残っている塚は、この時に造られたものです。

経の塚古墳から出土した重要文化財に指定されている埴輪は、円筒埴輪1点、甲冑形埴輪2点、家形埴輪1点です。埴輪の特徴から、古墳時代中期前半の、4世紀末から5世紀初頭頃に製作されたものと考えられます。典型的なものとは異なる、やや特異な形をしています。東北地方では、埴輪が普及するのは5世紀中頃以降ですので、それ以前の生産体制が整わない時期の特徴と考えられます。

石棺は、長持形石棺と呼ばれるもので、当時の最高クラスの墓に用いられる石棺です。北上山地の石材が利用されています。副葬された刀には、鹿の角で作られた装飾が付いています。それには、「直弧文」と呼ばれる、古墳時代に用いられた直線と弧状の線を複雑に組み合わせた文様が刻まれています。これらの出土遺物から、経の塚古墳の被葬者は、当時の政治の中心である近畿地方中心部の勢力と、密接な関係を持っていた有力者であったと考えられています。

東北大学所蔵の経の塚古墳の出土遺物は、片平キャンパスの文化財収蔵庫にて保管されています。旧制第二高等学校の書庫として建てられた建物で、登録有形文化財になっています。残念ながら一般公開はされていませんが、「東北大学学術資源研究公開センター」のウェブサイトから、内部の360度写真を見ることができます。石棺は、文化財収蔵庫の北側の屋外に置かれており、いつでも見学可能です。



長持形石棺

衣類や寝具を収納するために使われた「長持」に形が似ているところから付いた名前です。板石を組み合わせて作られています。



重要文化財に指定されている埴輪復元部分の劣化が進んできたため、修理が行われました。修理完了後に、東北大学東北アジア研究センターのデジタルアーカイブ委員会のプロジェクトの一環で撮影した写真です。

ウェブサイト「東北大学学術資源研究公開センター」
「片平キャンパス 360° VR ツアー」のページ
http://www.museum.tohoku.ac.jp/center/katahira_360/

トップページの右側にあるプルダウンメニューの「旧第二高等学校書庫(文化財収蔵庫)」をクリックすると建物の前に飛びます。埴輪は「1F奥」の近くにあります。



清水遺跡出土
石包丁



歴史の資料を収集中

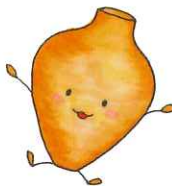
市の歴史をまとめる「市史」には歴史資料が不可欠です。ご家庭や町内会（契約会）で保管してきた資料を調査し、集めることが、市史編さん事業のとても大事な業務です。

市史編さんが始まった令和4年（2022年）4月以降、多くの方々にご協力いただき、資料を調査、収集しております。編さん室にお貸しいただいた資料は「〇〇〇〇氏所蔵資料」とネーミングして写真撮影した後、専用の資材（中性紙封筒と「もんじょ箱」）に梱包して返却します。ご寄贈いただいた資料は「□□□□氏寄贈資料」とネーミングして、同様に写真撮影し、専用資材で梱包し、市史編さん室で大切に保管しています。

今後も市の歴史や文化を後世に残すために、資料のご提供にご協力ください。



寄贈資料の一例



原遺跡出土
壺



資料清掃の作業



写真撮影の作業



資料保管状況

風景や行事の写真、地図や絵図、市内のお店のチラシや広告、契約会や町内会の資料、何が書いてあるのかわからない文書などなど。

「これはどうだ?」と思ったら市史編さん室までご一報ください!!



原遺跡出土
土器棺



名取の歴史に
触れられる場所
～いにしへの墓編～

かくとだに えやはいぶさの さしも草
さしも知らずなもゆる思ひを

藤原実方朝臣
（実方中將）

※私有地であるため見学不可です。

ふじわらのさねかた 藤原実方は平安時代中期の貴族で歌人(中古三十六歌仙の1人)。陸奥守(陸奥国全体の行政を担当する役人)としての在任中、笠島道祖神(現在の佐倍乃神社)の前を通る時に落馬し、そして絶命したという伝説があります。佐倍乃神社から北に1キロメートルほどのところに実方の墓と伝わる場所があります。

